

## 第4回通常総代会 開催しました

パルシステム新潟ときめきは、6月19日(金)、新潟日報メディアシップ日報ホールで、第4回通常総代会を開催しました。当日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本人出席は20人と例年よりすくなく、また、来賓や傍聴はご遠慮いただきました。

### 【開催概要】

1. 開会日時:2020年6月19日(金) 午前10時00分～12時05分
2. 開催場所:新潟日報メディアシップ 2階日報ホール
3. 総代総数: 103人
4. 総代出席者: 84人(本人出席20人、委任出席1人、書面議決出席63人)
5. 役員 (1) 出席(10人)

理事:瀬野悦子理事長、長崎清一専務理事、眞保清文常務理事、大横久美子理事  
坂井礼子理事、勝田厚子理事、高杉知子理事、渡辺れい子理事

監事:田巻志保子監事、野沢奈々重監事

(2) 欠席(2人)

理事:馬渡詳充理事、金澤ゆかり理事

議事は、以下の3議案でした。

なお、瀬野理事長の挨拶は今週同時配付の「ときめき通信 124号」に掲載されていますので、そちらもご覧ください。

### 【総代会議案】

第1号議案 2019年度事業活動報告、決算報告、損失処理案決定の件及び監査報告

第2号議案 2020年度事業活動計画(中期計画含む)、予算決定の件

第3号議案 役員報酬総額決定の件

### 【採決結果】

以下の通り、議決権数(議長を除く82票)の過半数(42票)以上の賛成があり、全議案可決・成立しました。

	反対	保留	賛成	結果
第1号議案	1	4	77	可決-承認
第2号議案	4	10	68	可決-承認
第3号議案	2	3	77	可決-承認



### 第1号議案より【2019年度事業概況】

- 組合員数 10,039人
- 出資金額 7811万1千円
- 供給高 11億6755万2千円
- 経常剰余金 △1億6556万1千円

### 【損失処理案】

I. 当期首損失金	535,885,923円
II. 当期損失金	165,743,874円
III. 当期末処理損失金	701,629,797円
IV. 損失金処理額	0円
V. 次期繰越損失金(累積赤字)	701,629,797円

### 第2号議案より【中期計画目標】

	2020年度末	2022年度末
組合員数	12,700人	17,469人
出資金(出資預り金含む)	1億1583万7千円	1億9904万7千円
供給高	13億5433万9千円	18億379万2千円
経常剰余金	△1億3808万8千円	△5058万8千円
資金収支(借入除く)	△306万0千円	+1575万7千円
累計借入金残高	6億7088万8千円	6億7088万8千円



## 大切なお知らせ

### 【経営改善の施策…2022年度資金収支黒字化達成のために】

#### 1. 独自品取扱いを基本的に停止します。

- ①実施時期:10月1回企画～
  - ②供給剰余率のアップや、直接経費・間接経費の削減、配送の効率化によって、収支を改善します。
  - ③『ありがたい姿』実現に向けた道筋を残すため、予約登録米などに絞り込み、物流・配送効率を悪化させない範囲内で、別積みで継続します。
- また、地元の農産品や特徴ある加工食品、調味料等がパルシステム連合会の方で取扱いできないか、可能性を探っていきます。

#### 2. 「ほんもの実感！」の取組を強化し、積極的な拡大を進めます。

\* さらに、それでも上記の中期計画の達成が困難と判断した場合には、2021年4月より、更なるコスト削減のため、配送エリアの縮小を実施します。

判断時期:2020年9月末

### 【このように決定した理由】



これまでは毎年の赤字を減らし、中期計画内の黒字化を目指してきました。その間の赤字による事業資金不足は、パルシステム連合会からの借入によって賄ってきました。2019年度末の借入残高は6億6588万7千円となり、借入極度額(限度額)の7億円に迫っています。今の見通しでは、独自品をこれまで通り維持しようとする、経費の伸びが大きいと、むしろ単年度赤字が増え、黒字化の見通しが立てられません。

このため、経費の伸びを、当面見通せる事業規模で賄えるように抑え、それによって毎年の赤字を減らして、黒字化の道筋を作り直さなければなりません。



**【質疑応答の要旨】**

発言者氏名	発言要旨
豊田春美 総代	<p>昨年、5年目に黒字になるという考えは甘いと申し上げた。加入すれど買わないというのが一番の問題。加入時の対応は？</p> <p>新潟独自の農産品がなくなるとパルシステムの野菜は買わず、地元野菜に行くと思う。</p> <p>コロナ禍で、地産地消、自給自足というのが新しい生活になると思う。その考えは？</p> 
杉林康子 総代	<p>組合員の年代構成を教えてください。</p> <p>インターネットで、市販品との違いや自給自足のことなど、ネットを見る若い方々に伝えてほしい。</p> 
永澤由紀子 総代	<p>議案書 29 ページ貸借対照表、供給未収金と未収金の内容は？</p> <p>議案書 41 ページ監査所見、「経済の流れの厳しい分析と組合員の詳細なニーズ把握に務めて頂きたい」とあるが、その要因はなにか。</p>
石塚美津夫 総代	<p>生活協同組合の原点は運動論が基本。近年はパルシステム本部も運動論はほとんど見え隠れしている。大災害の場合を考えても、命を守る、食を守る、環境・暮らしを守るという原点は運動論が根底にあるかどうか。</p> <p>全農の食材宅配撤退、買い物難民対策など、それに対して努力をどれだけしたか。</p> <p>新潟だからこそできること。地場産の野菜や生鮮食品は地産地消の原点を忘れては運動論がなくなる。今からでも遅くない。専門の人をおけばいい。私がやりましょうか！</p> 
長崎清一 専務理事 (回答)	<p>結果として出来なかった訳で、「甘かった」と言われればその通り。ときめきの中期計画は、まず、事業開始時5千人の組合員を集めるというところからスタートした。その後も、「独自品を展開しながら早期に黒字化するために、これだけの組合員、供給高が必要」ということで、背伸びに背伸びを求めてきた。しかし、どんなに背伸びしても2階には届かない。そこで、入ってくるお金(供給高・出資金など)の計画を当面見通せる規模に修正し、それで賄える経費構造にもっていく。そうすることで2022年度に「資金収支」で黒字にする。</p> <p>買いやすいように勧めたのか？ということだが、がんばってきたつもり。ホームページ、フェイスブックなどの媒体も使ってきた。また、ブロックでの試食会、ときめき学校、ときめき講座などを通じて商品を広めてきた。ただ、結果数字から見れば足りなかった。もっと考えなくてはいけない。</p> <p>野菜・果物は、やっぱり旬の時期は地元産だと思う。他県から運んでくるのは変だという気持ちも分かる。しかしそれを続けるだけの我々の体力が、今はない。それを作るのが先。</p> <p>年代構成は、40～50歳代がメイン。そのような人たちに届くような媒体として、フェイスブック以外のSNSも研究している。</p> <p>「供給未収金」は2月・3月(2カ月分)の供給代金の自動引き落とし分。パルシステム連合会で一括引き落としとしてそこから新潟に入ってくるのが2カ月後なので2カ月分残っている。「未収金」は同じく2月・3月供給代金のクレカ払いの分がほとんど。なお、延滞が進んでいる部分の金額は貸倒引当金を見てほしい。</p> <p>高コスト要因については立ち上げ当初からわかっていた。だから早く組合員を増やして、供給を上げて、早く高コストの部分を回収できるようにしようと3年間やってきた。がんばって伸ばしてきたが高コストを回収できるまでには至らなかった。</p> <p>運動論は否定していない。『ありがたい姿』をやめたわけではない。これをなくしたら「新潟ときめ</p> 

	<p>き」でなくなってしまう。もしも大きな災害があつて、関東圏から商品が届かない問題がおきたらその時に考えるしかない。もう一度生産者に頭を下げて回るしかないと思う。JA 全農との関係は、話は2・3あつたが条件が合わず出来なかったところもあつた。その中でなんとかこぎつけたのが JA ささかみだつた。</p>
野沢奈々重 監事(回答)	<p>消費税増税・キャッシュレス還元や、最近の「新しい生活様式」など大きく含めて「経済の流れ」とした。</p> <p>「組合員の詳細なニーズ把握」の背景にあつたのは、一人あたり利用額を上げるにはどうするか。ベビー特典やポイント付与など制度はあるが、果たしてそれだけでいいのか。どうやったら利用してもらえるのかというところで、そのように書いた。</p>
豊田春美 総代	<p>先ほど「体力をつけて」とあつたが、生産者を切つて2年後にお願いなんてできるのか。いろいろやってきたと言うが死に物狂いでやつたのか。(若い組合員を)教育しないと。食べ物は体を作っているのだから我々が教えていかなければ日本の食がなくなってしまう。私は素材を大事にしたい。そこを教えないといけないと思う。生協は教育することも大事。</p>
千野みち子 総代	<p>かぶや、ぶなしめじ、キャベツなど生協の物のほうが美味しくて違う。最初に立ち上げてくださった方々が、生産者にしっかりお願いしたおかげだと思う。独自商品がなくなるというのは本当に悲しい。若い方にもスーパーの商品とは違うということを勉強会でやってほしい。赤字だけど今まで努力してやってきたということを知ってもらえないと一生懸命やってきた方々が生かされない。地場のものを入れてほしい。損得ではなく考えてほしい。</p> <p>もしだったら出資金を上げる時期を決めて、組合員に100円から200円に上げてもらうというのも良いと思う。ボランティアでお料理の仕方や包丁の研ぎ方などを若い人たちに教えてあげれば良いと思う。私もやってみたい。</p> 
永澤由紀子 総代	<p>監査所見「組合員の詳細なニーズ把握に務めて頂きたい」というところに興味を惹かれている。顔の見える商品は生協が先駆けだったと思うが、スーパーが追い付いてきてしまった。独自カタログを見ても買いたくなる情報がない。</p> <p>石塚総代が協力を申し出てくださった。今の執行部には駆り立てられるものがない、運動の力が見えてこない。石塚総代にぜひ力を貸してもらってほしい。</p> 
長崎清一 専務理事 (回答)	<p>このような提案をしなくてはいけないというのは本当に申し訳ない。素材を大切に、素材から料理していく能力がもっと必要だと思う。</p> <p>この間、どうやったら顔の見える関係を築けるのかと、ホームページで「達人にときめき」というコーナーを作ったり、いろいろやってきた。しかし、目標の数字に達していないことからすれば足りなかったのだと思う。知恵を出し合いながら、知恵をもらいながらやっていきたい。</p> <p>一人あたり利用金額は、新潟ときめきのファンをもっと増やしていかないと上がらない。5年、10年かける中で少しずつ上がっていくのだと思う。組合員がどのような商品を買っているかという、独自商品よりもパルシステムの商品。その中でも素材よりもお料理セットなどの時短商品。しかし、そこから素材の大切さに関心をもつ組合員をどのように見つけて増やしていくのか、消費者学習をどのように組み立てていくのかはみなさんからの意見を受け止めて考えていきたい。</p>
野沢奈々重 監事(回答)	<p>確かに努力不足が見える部分はある。組合員の声にすぐに対応することが大事だと思う。</p>
瀬野悦子 理事長 (回答)	<p>石塚総代からどのような協力がいただけるのか。理事長としてアドバイス、ご指導をうけていきたいと思う。</p> 